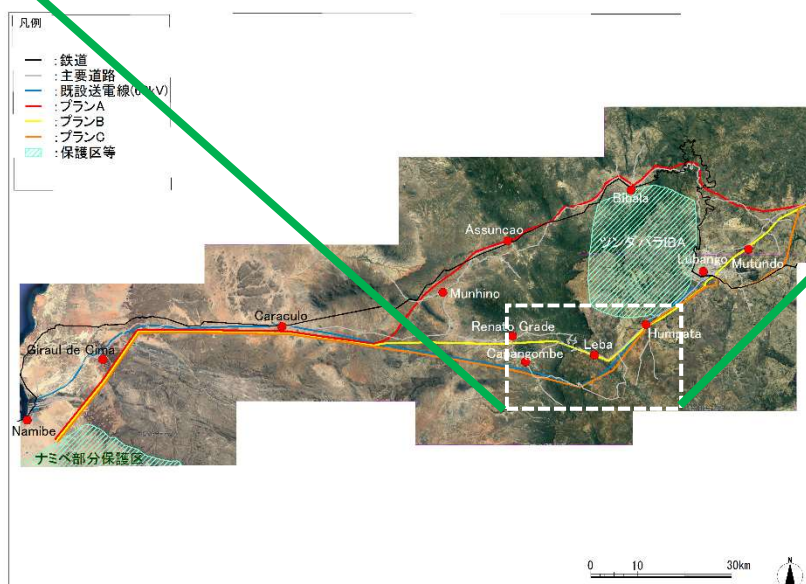


補足説明資料－1 (No. 18 米田委員質問)： 送電線ルート of 急崖部

ルバンゴ－ナミベ間のプラン B(下図黄線)とプラン C(下図橙線)の想定ルートの急崖部の標高を補足図 1-1 に示す。

プラン B は道路沿いを想定していたが、切り立った地形を削ったもので鉄塔の設置は極めて困難なことが判明した。一方プラン C は既設 60kV 送電線ルートに沿うもので技術的に容易と考えられる。



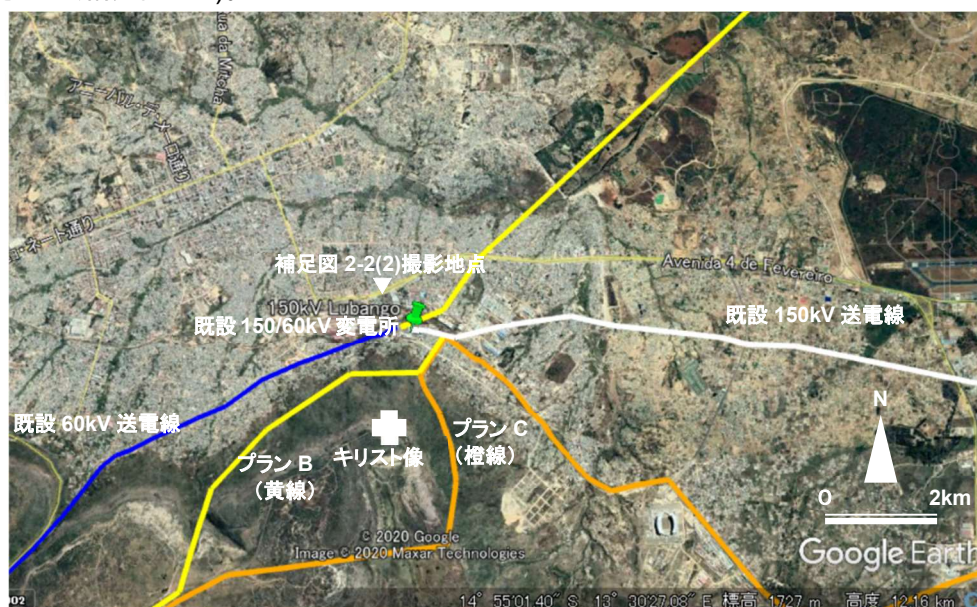
(出所) Google Earth での作図をもとに協力準備調査団が加筆

補足図 1-1 送電線ルート候補(プラン B 及びプラン C)の急崖部

## 補足資料-2 (No. 19 米田委員質問) : ルバンゴ市街のルート案

ルバンゴ市街のルート案を補足図 2-1 に示した。

ルバンゴ市の RNT の既設 150/60kV 変電所の南側にはルバンゴのシンボルであるキリスト像が丘の上に立っている(補足図 2-2)。プラン B(補足図 2-1 黄線)は変電所からこの丘の西側を通過してナミベに至るルートであるが、現在では住宅が密集しており、この付近への 220kV の建設は多くの住民移転を招くことが想定されるとともに、ウィラ州政府からはキリスト像の正面にあたる市街中心部からの景観を著しく損なうことを強く懸念する意見が出された。このためキリスト像の側面で住宅等の少ない丘のふもとと東側を回り込んで南に向かうプラン C(補足図 2-1 橙線)が提案された(補足図 2-3)。



(出所) Google Earth をもとに協力準備調査団が加筆

補足図 2-1 ルバンゴ市内のルート候補(プラン B(図中黄線), プラン C(図中橙線))



(1)キリスト像



(2)キリスト像の丘: 北側(市街地)より望む

(出所) 協力準備調査団作成

補足図 2-2 キリスト像の丘



(1)キリスト像の丘を西側より望む



(2)キリスト像の丘を東側より望む

(出所)協力準備調査団作成

補足図 2-3 キリスト像の丘の西側及び東側の状況

### 補足資料－3 (No. 27 石田委員コメント) : 送電線ルート 3 候補の説明

#### (1) 着眼点

- ① ナミベ部分保護区、
- ② ツンダバラ IBA
- ③ 標高 2,000m を超えるチェラ台地
- ④ レイバ山はこの地域にとって重要な景勝地
- ⑤ ルバンゴ市街のキリスト像: 既設 150kV 変電所のすぐ南側の丘にはルバンゴの市街からのキリスト像が建てられており、市街地からのキリスト像と丘の景観への配慮が必要

#### (2) ツンダバラ IBA への影響を回避・最小化するためのルート

- ① ツンダバラ IBA の北側を通る既存道路沿いに鉄道の ROW を利用したルート(プラン A)  
独自の区間では道路と鉄道沿いの北側ないし西側を基本
- ② ツンダバラ IBA の南側を通る国道 280 号沿いのルート(プラン B)  
レイバ山の前面を横切るため地元ウィラ州政府関係者や RNT から否定的
- ③ 国道 280 号の南側を迂回し、既設 60kV 送電線に沿うルート(プラン C)  
全線で道路、既設 60kV 送電線の南側ないし東側に沿うことを基本

#### (各ルートの特徴)

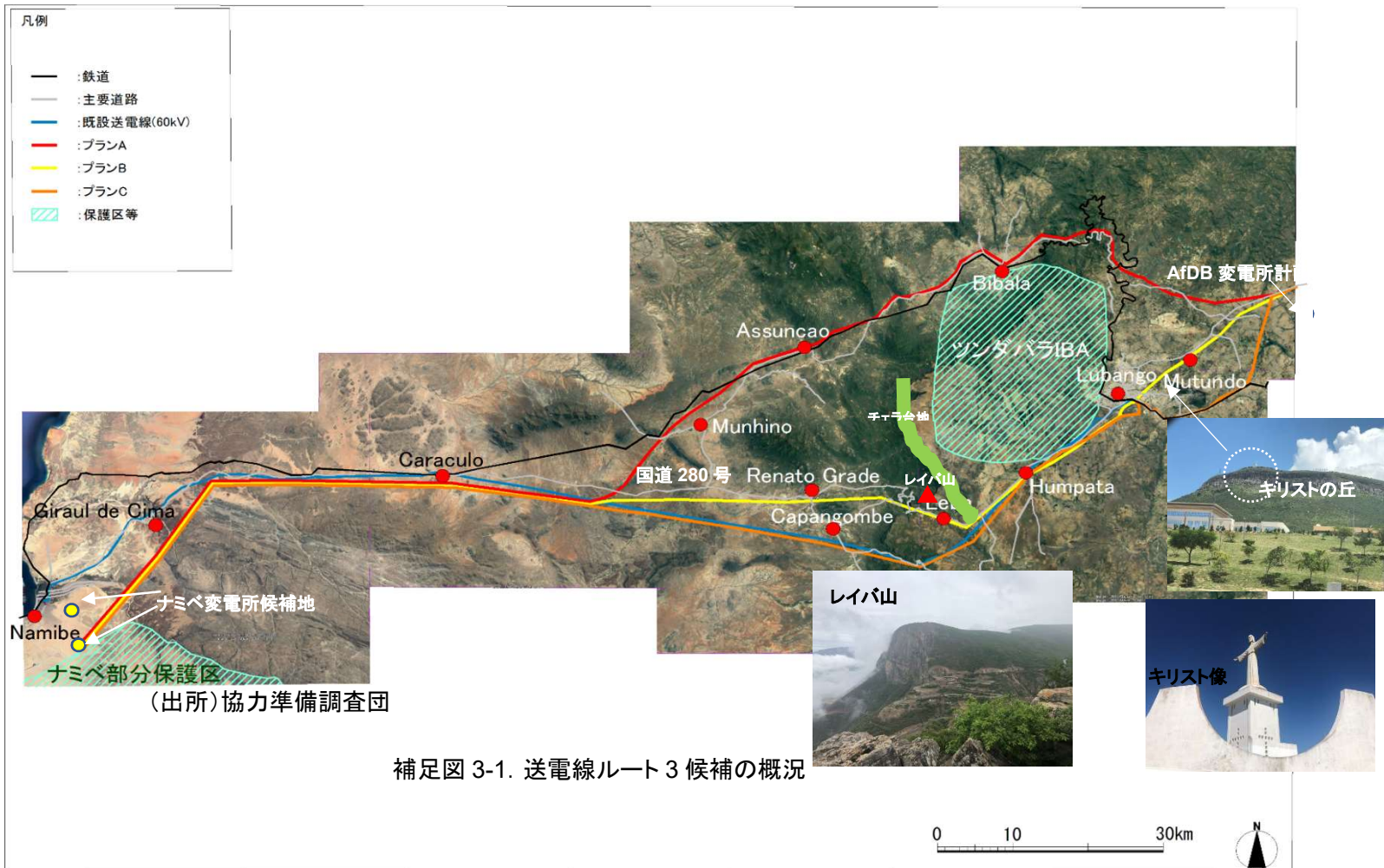
プラン B 及び C では約 8km の区間で約 1200m の高度差がある断崖地域のルートとなるため技術的な面での検討が課題となるが、プラン A は比較的緩やかである。

#### (3) ルバンゴ市街地のルート

- ① プラン A は北側から市街地を迂回する形になるため、住民移転を回避することができる。
  - ② RNT はルバンゴ市内の既設 150kV 変電所のリプレースを計画中であるため、将来的に本事業の 220kV の引き込みが容易なルートを要望
- 国道 280 号にそのまま沿うルート(プラン B) : 住居等が密集する市街中心地  
→ 市街地の東側を鉄道沿いに迂回するルート(プラン C) : 既設 150kV 変電所付近では住居地域の通過が避けられず、200 人程度の移転が生じる可能性あり

#### (4) その他

本事業対象地の西側、ナミベよりの約 80km の区間は国道もしくは既設 60kV 送電線に沿ったルートとすること以外には選択の余地はないと考えられるが、河川の横断箇所は既設 60kV 送電線より上流側にして、市街地を避けて敷設距離を短縮する想定している。



補足図 3-1. 送電線ルート 3 候補の概況